

カキ生育情報

千葉県
令和元年9月号

果実の生育は平年並みで順調です。「西村早生」では収穫が始まります。収穫はへた部の着色程度で判断します。早生品種は果頂部とへた部の着色に差が生じやすいため、注意しましょう。

令和元年8月の気象

令和元年8月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第1～第4半旬が平年より1℃以上高く推移し、第5、第6半旬はほぼ平年並みであった。月平均気温は27.1℃で、平年より1.1℃、前年より0.3℃高かった。

降水量は全体的に少なく、第3半旬を除く第5半旬まではほとんど降雨がなかった。第6半旬は44mmとやや多かった。月合計は72mmで平年の50%、前年の277%であった。

日照時間は第1、第2半旬が平年比で150%以上と多く、第3、第4半旬はほぼ平年並みで、第5半旬以降は平年より少なかった。月合計は229時間で平年の106%、前年の90%であった。

表1 令和元年8月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	27.6	26.0	28.1	0	21	0	54	36	54
2	27.7	26.1	26.0	0	27	10	58	36	22
3	28.0	26.2	27.7	25	25	1	34	35	41
4	27.4	26.0	23.8	0	22	14	32	35	42
5	26.1	25.9	27.7	3	19	1	21	35	41
6	25.9	25.7	27.6	44	30	0	30	40	55
平均/計	27.1	26.0	26.8	72	144	26	229	217	255

果実の発育

8月30日現在のカキの果径を表2に示した。横径は、「西村早生」と「松本早生富有」が2地区の平均で見るとそれぞれ6.29cm、6.46cm、暖地園研の「富有」が6.50cmであった。平年と比べると「西村早生」は100%、「松本早生富有」は105%、「富有」は101%で、平年並みか、平年よりやや大きかった。

縦径は、「西村早生」と「松本早生富有」が2地区の平均で見るとそれぞれ4.67cm、4.75cm、暖地園研の「富有」が4.93cmであった。平年と比べると「西村早生」は101%、「松本早生富有」は105%、「富有」は100%で、平年並みか、平年よりやや大きかった。

果形指数は、「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均で見るとそれぞれ1.35、1.36、暖地園研の「富有」が1.32で、いずれの品種もほぼ平年並みであった。

本年の果実の生育は、前回の調査に引き続き3品種ともほぼ平年並みで順調である。

表2 果実の発育（8月30日の果径）

品 種	調 査 地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	いすみ市	6.33	6.20	6.56	4.56	4.60	4.68	1.39	1.35	1.40
	暖地園研	6.26	6.32	6.80	4.77	4.62	5.07	1.31	1.37	1.34
	平 均	6.29	6.26	6.68	4.67	4.62	4.87	1.35	1.35	1.37
松本早生 富 有	市 原 市	6.34	6.05	6.11	4.70	4.38	4.62	1.35	1.38	1.32
	暖地園研	6.57	6.34	6.85	4.81	4.69	4.85	1.37	1.35	1.41
	平 均	6.46	6.16	6.48	4.75	4.52	4.73	1.36	1.36	1.37
富 有	暖地園研	6.50	6.44	6.76	4.93	4.92	4.96	1.32	1.31	1.36

果形指数：横径／縦径

平年：暖地園研は1990年～2018年の平均、いすみ市、市原市は1998年～2018年の平均

9～10月の作業

収 穫

「西村早生」の収穫が始まる。カキの果実は樹上で成熟しながら大きくなり、収穫後に品質が向上することはない。早獲りすれば、大きさ、品質の面で適熟の果実より劣るので、収穫前にはカラーチャートを用いて果皮色を確認し、適熟果の収穫に努める。適熟の色は果頂部ではなくへた部の果皮色で判断する。「西村早生」、「富有」はへた部4、「松本早生富有」はへた部4.5が目安となる。特に、「西村早生」は果頂部とへた部の果皮色の差が大きいので注意が必要である。また、「西村早生」では渋果の混入を防ぐため、必ず渋果判定機による選別を行う。

追 肥

貯蔵養分の多少は、翌年の樹の生育と着花量を左右する。貯蔵養分を蓄積させるため、礼肥を施す。「西村早生」などの早生品種では収穫直後の10月中旬頃、「松本早生富有」、「富有」及び「次郎」などの中晩生品種では着色初期となる10月中下旬頃を目安に、速効性肥料で施用する。窒素の成分量で、年間施肥量の15%程度となる2～3kg/10aが適当である。

病虫害防除

9月上旬～中旬にカキノヘタムシガ、コナカイガラムシ類を防除するため、バンド誘殺を行う。カキノヘタムシガの被害果は地中に埋没する。カメムシ類が多い場合は薬剤散布を行う。炭疽病又はうどんこ病の発生が多い園では、9月下旬までが防除適期である。特に、台風通過後は炭疽病が発生しやすいため、予防散布を行う。防除の際には、早生品種と中晩生品種の混植園では収穫前使用日数に十分注意する。これらの防除は、千葉県農作物病虫害雑草防除指針に基づいて行う。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>